

Q 人材センターの拡充は

A 業務委託の推進を継続



▲社団法人格を取得し、事業拡大が期待されるシルバー人材センターの活動



Q1

滝沢村シルバー人材センターは16年盛岡市シルバー人材センターより独立し、昨年12月社団法人格を取得。19年度より、事業の拡充が期待されます。団塊の世代の定年を迎える年に当たり、同人材センターでの就労は、生きが



山谷 仁 議員(新志会)

A1

シルバー人材センターは高齢者の労働派遣や技術講習を中心に活動しております。設立当初の会員56人から現在は189人、受注件数も16年293件、今年度は707件と飛躍的に伸びてきております。19年度からは国の補助金が交付されておりますので同人材センターの事務局機能が充実し就業斡旋業務の促進、技能講習会、安全対策を重視し、事業拡大が図られると思われ

ます。今年から団塊の世代が退職し、後はますます高齢者の生きがい対策、健康増進などの面からも同人材センターの果たす役割は大きく、村としても会員確保の村民周知や村行政に

Q2

係る業務委託の推進などを継続しながら、同人材センターが自立し活動できるよう支援してまいります。

役場職員の1/3程度が他市町村に居住していますが、村税収入などを考えると、出来れば村内に住んでもらいたいと考えは

A2

現在役場職員は297名です。その内村内に居住している職員は179名、盛岡市に居住している職員109名、その他8名となっています。

税収面では一定の効果は考えられるものの、基本的には居住地は自由に選択できるものと考えます。

Q 水道料金の引き下げは

A 収入の増が見込めない



桜井 博義 議員

Q1

①水道事業単年度利益、ため込み利益は一般常識を超えると考えるが適正か。

②本村は恵まれた水資源から水道料金の引き下げが可能ではないか。

③独り暮らしや少量利用の立場から、下限の料金設定を細分化できないか。

A1

①剰余金合計額が23億6,400万は、現金保有ではなく、主に宅地開発内の配水管等で創設から現在まで繰入れたもので、残りが減債積立金と純利益となります。

②創設より30年が過ぎ、更新時期を迎え、災害に強い施設の構築が必要で、26年まで62億円の事業費を予定し、収入の伸びは見込めない状況から引き下げは考えていません。

③水道事業経営審議会の意見を聞き、見直しを検討しています。

見直す点では節水や公平性、需要者にわかりやすい料金をめざします。



▲老朽配水管（塩化ビニール管）の更新がはじまっています

高くて払えない国保税

Q2

①長期滞納者の実態と、生活が困窮者への対応策は。

②障害者、乳幼児、高齢者には資格証明書の交付は止めるべきと考えるがどうか。

③高過ぎる国保税は、低所得者層中心に引き下げるべきと考えますがどうか。

A2

①収納率17年度69.2%、と県下最下位で危機的状況にあります。担税力の調査をして滞納整理を進めます。

②相談に応じず、分割納付を守らない方でやむ得ない場合は交付していません。

③軽減および減免措置などもあり、新たな引き下げは考えていません。

介護保険・利用料軽減策は

Q3

昨年度からの保険料・利用料の値上げに一部の軽減策もあります。が、低所得者に対する独自の軽減策は。

A3

災害時等の保険料を減免してはいます。

利用料は一時的な生活困窮、福祉法人の費用を一部助成しています。